

Access Report

2017年 12月 30日号
アクセス教育情報センター

目次

学校情報	公開模試情報	教育情報	教育情報	その他
・桐朋中 ・洛星中高	・12月三模試学校別志望者数(抜粋) 男子・女子	・英語教員 ・高校の朝課外 ・中教審 ・公立小中学校	・教員負担減へ	・名言・迷言・冥言 ・今年の漢字 ・公開講座 ・小中学生の視力

学校情報

桐朋中 塾対象説明会 (2017年5月24日)



2) 入試問題について 各教科より

1. 国語

毎年、受験生に読ませたい作品を取り上げている。

本文…他者との関係で成長する少年について。成長、変化がテーマとなる文章が選ばれることが多い。

設問…正しい読解と自分の言葉による伝達を問う。基礎力を問う問題から記述までを出題。確かな知識に裏付けられた読解力を求める。

①受験生に望むこと

・日頃の言語生活を豊かに。時間をかけてゆっくりと語彙を増やして欲しい。

「胸がかきむしられる」という設問の正答率が低かった。

・思い込みを排除する意識をもつ。自分に近い主人公が出てくるので主観的に答えてしまう場合がある。

②第1回入試から

漢字…必出。配点の比率も高い。正答率は高い。丁寧な字で書くこと。例えば「破」という字なら、直線、角を丁寧に書く。文脈に応じて文字を選べるか。「筆頭」は50%程度の正解だった。

記述…作品全体を読み取ること。大問1の問4で母親の気持ちの変化を聞いているが、文章全体を把握して書いて欲しいところ。10点の配点で得点率の平均は4点だった。母親の気持ちを想像して勝手に書いている答案も見られた。

設問の空欄や傍線部の前後しか見ていないで答えている答案も多い。

時間は充分にあるので、丁寧に問題に取り組んでいるかが点数の差になっている。

③第2回入試から

漢字…キッチンと問題文を読むこと。シュクフク(祝福)をシュウフクと読み間違えて修復と書いていた答案がある。文脈を読んでいない。

記述…丁寧な記述を。「AなのにB」=対比を捉えられているか。解答欄に合わせた肉付けも必要。

丁寧な読み取りをして欲しい。「砂をかむ」という意味を知らなくても、文脈から判断して欲しい。

字が雑になっていて「か」と「や」の見分けがつかない人が増えている。

2. 算数

・基礎から応用まで幅広く出題。

・難易度順に出題。

・記述問題を必ず出題。

・手を動かすことで構造が理解できる問題を出題。

50分にしては問題量が多いと言われるが、あらゆるジャンルから出題できる。

集中力が問われる。

応用問題も手のつかないような問題は出題していない。

問1～問4 基本・標準問題 → 確実に解いてもらいたい。

問5～問7 標準・発展問題 → どこまで解けるかがポイント。

問6・問7は桐朋の数学科がこだわって作成している問題。難しそうに見えるが、手を動かすことにより構造が見えてくる。

①第1回入試から

問1 基本的な計算問題 とてもよく出来ていた。

問2 基本的な文章題や図形の問題 (1)(2)はよく出来ていた。(3)は差が出る。

問3 速さと時間 よく出来ていた。

問4 図形とつるかめ算 よく出来ていた。(2)は35%が満点だった。

問5 ボールの移動と比(記述解答) (2)の記述はさまざまな解答あり。採点者で話し合いをしながら

ら部分点をつける。12%が満点。線分図を使ってよく考えていた。

問6 接触する面の数え上げ 読解力が必要。5通り答えられた満点は3名。

問7 素因数の推定 最後の問題としては手がつけやすかったが、完答は難しかった。(3)は15%、(4)は5%の正答率。

②第2回入試から

問1 基本的な計算問題 とてもよく出来ていた。

問2 基本的な文章題や図形の問題 とてもよく出来ていた。

問3 速さと時間 とてもよく出来ていた。

問4 仕事とつるかめ算(記述解答) (2)は6割以上が満点。

問5 図形の計量 よく出来ていた。

問6 整数の和と積による推定 予想より出来がよかった。問5までが解きやすく、時間に余裕があったためと思われる。

問7 最小公倍数による推定 (3)より(2)が出来ていなかった。

3. 社会

・基本方針…知的関心を喚起させるための問題になるように意識している。7割の得点率を目標に作問。

・平均点…第1回46.3点。第2回46.2点。概ね77%の正答率に。

・問題構成…歴史、地理、公民の順で大問を配置。従来通りの構成・配置。

①第1回入試から

歴史…地域のつながりから時代認識と空間認識を問う。

「卑弥呼」の漢字ミスが目立つ。基本的事項の漢字ミスはもったいない。

平氏政権の特徴を説明する問いは、やや難しかったようである。

地理…峠と海峡、境界線、国境について。

雨温図の問題では、もう少し冷静に考えて答えて欲しかった。

公民…地域社会の問題。

眺めの記述があったが、総じて出来はよかった。

②第2回入試から

歴史…権力の変遷から時代認識を問う。

「寝殿造り」の漢字ミスが目立つ。

地理…漁業と林業。

尾瀬の場所を問う問題の正答率が低かった。

公民…格差社会。

社会権という概念が理解されていない印象を受ける。

記述問題は第1回より適確に書けていなかった。

③受験生に期待すること

・歴史資料や地図を使っての学習を

・読んで、考え、分かったことを論理的に表現する力を。

・時事問題への関心を。

教科書を中心とした基本的な内容を出題している。

4. 理科

・物理、化学、生物、地学の4分野から出題。大問4題の構成。

それぞれの分野ごとに基礎から応用まで出題する。

・日常生活の中にある「理科」

身近な現象や実験などを題材にして、基本的知識と考察を求める。

①第1回入試から

物理分野…電流回路

問1、問3は高い正答率。問5の正解は数名。

化学分野…物の燃え方と溶け方

問1は高い正答率。問3、問4の正答率は低い。

生物分野…魚の生活

問1、問2、問3は高い正答率。問4、問5は予想より低い正答率。

地学分野…気温と地温の関係

問1、問2、問3は高い正答率。問4、問5は予想より低い正答率。

②第2回入試より

物理分野…てこ

問1、問2、問3(1)、(2)は高い正答率。

化学分野…金属の性質

問1は5割程度の正答率。問2から正答率は低い。

生物分野…外温の変化に対する反応

問1、問2(1)、(2)は高い正答率。

地学分野…皆既日食

問1、問2は高い正答率。

③最後に

・日頃より身近な物事に興味を持つ。苦手分野を作らない。授業で学んだものとの関連をつける

・記述問題は何を問われているかを理解し、過不足のない表現をする。

5) 中学入試について 中学部長 秋山先生

①2017年入試結果

	第1回	第2回
入試日	2/1	2/2
募集人数	110	70
応募者数	439	701
受験者数	407	545
合格者数	157	263
合格基準	204	208

(満点) (320) (320)

受験者平均

国語	52.8	55.3
算数	61.1	72.1
社会	46.3	46.2
理科	33.5	33.5
合計	193.7	204.4

2回入試になって2年目。

web出願に。出願1日、2日目でほとんどの出願があった。

応募者は昨年よりやや増加。

欠席者は1回目が32名、2回目が156名。ほぼ昨年並み。

合格者数は昨年、繰り上げを多く出して迷惑をかける。

今年は第2回の合格者を多めにする。繰り上げは7名で。

第1回、第2回の入試問題の難易度は同じように作成しているが、算数は1回と2回で平均点に差が出た。

第2回は23区内からの受験生が多かった。多摩地区からの受験生も若干増加。

1回、2回のダブル出願は260名。桐朋の教育に賛同してくれての出願だと思う。

②2018年入試

2017年と変更無し。

③桐朋ニュース

・新校舎工事…昨年12月に全ての工事が終了。5年かかったが、生徒に迷惑のかからないように配慮しながら行う。正門からみや林が見られるようになる。



・英国ラグビー校との交流協定を結ぶ。

2011年に最初の交流。2016年に再来日。今夏、桐朋の生徒がサマーコースに招待され、50名が参加。

それ以外に、ケンブリッジ大学の大学生を招いてのエンパワーメントプログラムを実施。
トビタテ留学制度を利用して1名が留学。

・NHKラジオ基礎英語1の講師を今年も桐朋の英語科の教員が担当。

④生徒の様子(映像を使いながら)

・クラスの日(中1、中2)・・・クラスの親睦を深める。1泊2日の宿泊行事。クラス毎に企画して行動。
費用は1万8千円以内。

・東北修学旅行(中3)・・・10月に。30年以上継続。農業体験、酪農体験、民芸品作成、東日本大震災の震災遺構見学など。田老では田老中の生徒(全校生徒35名)との交流会も。交流会では震災を経験した自分たちと同じ年齢の生徒の話が生徒の心に影響を与えている。
